

令和4年度 別府市社会福祉協議会 事業報告

事業報告（総括）

新型コロナウイルス感染症の影響による、経済的困窮などの課題に対応する緊急小口資金等の特例貸付制度が令和2年3月に開始し、令和4年9月末で終了し、本年1月からはこれらの貸付に対する償還が始まりました。

これに伴い、別府市社会福祉協議会（以下、「本会」という）では、償還免除や償還猶予の申請手続きの支援を行うほか、従来の生活福祉資金貸付事業の制度を活用して、経済的自立や生活意欲の助長及び社会参加の促進を図り、安定した生活を送れるように相談支援を行ってきました。

また、このような状況下では社会的孤立が懸念され、地域福祉活動の展開が急務であるため、感染対策を徹底しながら可能な限りの地域福祉活動や福祉サービス、市民講演会等を再開し、併せて地域でのサロン活動についても再開され始めたことに伴い、出前講座等も徐々に実施することができました。

更に10月には「社会福祉大会・社会福祉事業功労者表彰式」を、11月には「福祉まつり・市民と消防のつどい」を3年ぶりに開催することができました。

一方、権利擁護支援の地域連携ネットワークの中核機関として、成年後見制度を必要とする全ての人が制度の利用につながるよう支援体制の構築に取り組むとともに、成年後見制度への理解を深めてもらうため、市民や専門職等を対象に普及啓発を行なったほか、後見業務の新たな担い手として期待される市民後見人の養成講座（専門課程）を開催しました。

その他の事業としては、本会が所管する別府市北部コミュニティーセンター（通称：あすなる館）は、平成16年に開設して以来18年を経過したため、建物の長寿命化と施設の利便性向上を図るため、外壁の防水塗装の施工や室内照明のLED化、トレーニング機器の更新等について別府競輪地域貢献事業補助制度を活用し実施をしました。

最後に、この一年も新型コロナウイルスの影響で依然として、様々な活動が制限され、人々の生活様式も変化するなか、after コロナを見据えた計画の見直しを図りながら、できる限りの事業実施をいたしました。

以下、令和4年度の各部門の事業等についてご報告します。

総務部門

<情報・発信力の強化>

情報をいかに必要な人に届けられるかを念頭におきながら、わかりやすい適切な情報提供に努めました。市民一人ひとりの福祉に関する理解と参加を促進するため、広報誌やホームページ・SNSを有効活用し、時代にそった情報共有の手法を活用しました。

また、生活を支える社会資源に関する情報や、社会福祉協議会の活動を積極的に広報・啓発しながら、市民への周知・理解を得られるよう、情報発信の拡充に努めます。

<理事会・評議員会・その他委員会機能の活性化>

理事会・評議員会での議案等の資料については、簡素化と明確化を心がけ作成しました。

また、理事会・評議員会での議論が活発に行われるよう、現在の問題点や検討事項を報告するなど、運営の向上に努めました。

□理事会の開催

第1回 令和4年6月6日(月) 13時30分 場所 別府市社会福祉会館

出席12名 監事出席2名

議題第1号 令和3年度事業報告及び決算報告について

議題第2号 令和4年度収支補正予算について(第1回)

議題第3号 北部コミュニティーセンター改修工事に伴う契約方法について

議題第4号 諸規程等の改正について

議題第5号 評議員選任・解任委員会の選任について

議題第6号 理事候補者の推薦について

議題第7号 評議員候補者の推薦について

議題第8号 令和4年度第1回評議員会の招集について

第2回 令和4年6月27日(月) 11時 場所 別府市社会福祉会館

出席11名 監事出席2名

議題第1号 副会長の選定について

議案第1号 副会長1名の選定について

議案第2号 副会長(第1順位)の選定について

議案第3号 副会長(第2順位)の選定について

第3回 令和5年3月17日（金）13時10分 場所 別府市社会福祉会館

出席 12名 監事出席 2名

議題第1号 令和4年度収支補正予算（第2回）について

議題第2号 令和5年度事業計画及び収支予算について

議題第3号 諸規程の一部改正について

議題第4号 令和4年度第2回評議員会の招集について

議題第5号 報告について

議案第1号 職務執行状況の報告について

議案第2号 第3次別府市地域福祉活動計画策定について

□評議員会の開催

第1回 令和4年6月24日（金）13時30分 場所 別府市社会福祉会館

出席 16名 監事出席 1名

議題第1号 令和3年度事業報告及び決算報告について

議題第2号 令和4年度収支補正予算（第1回）について

議題第3号 理事の選任について

報告について

報告1号 北部コミュニティーセンター改修工事に伴う契約方法等について

報告2号 諸規程の改正について

報告3号 評議員選任・解任委員会の委員の選任について

第2回 令和5年3月29日（水）13時30分 場所 別府市社会福祉会館

出席 15名 監事出席 1名

議題第1号 令和4年度収支補正予算（第2回目）について

議題第2号 令和5年度事業計画及び収支予算について

報告について

報告1号 諸規程等の一部改正について

報告2号 職務執行状況の報告について

報告3号 第3次別府市地域福祉活動計画策定について

□監査

令和4年5月17日（月）10時 場所 別府市社会福祉会館

結果：事業状況、収支決算状況とも特に指摘事項なし

<人材確保と人財育成>

職員育成のためのスキルアップを図る環境づくり及び働き方改革に基づいた職場づくりに取り組みました。さらに有資格者の人材を確保し、職員の業務遂行能力の向上と資質向上を図ることを目的に、資格取得費用等の一部を助成する「職員資格取得促進事業実施要綱」を制定しました。

●職員研修受講一覧

研修会内容	参加回数
専門研修	21
スキルアップ研修	6

●その他の研修

職員研修…コロナ禍における地域づくり（4月）人権学習（9月）

交通安全講習（11月）災害ボランティアセンターネットワーク研修会（3月）

包括支援体制と地域共生社会・共生社会の実現に向けた総合研修

7月8日～2月17日（計6回）

災害VC設置訓練等の研修

スタッフ研修（1回）、リーダー研修（2回）訓練（2回）

<会員制度の充実及び入会の促進>

レクリエーション備品の貸し出しや訪問型有償ボランティアの利用条件等、会員加入のメリットを伝えながら入会の促進に努めるなど会員の拡充強化を図りました。

■会費収入総額 536口 637,500円（3年度428口 497,500円）

・一般会費（個人一口500円）61口 30,500円（3年度77口 38,500円）

・特別会費（個人・団体一口1,000円）442口 442,000円（3年度374口 324,000円）

（本会役員、自治委員、民生児童委員、地区社協、福祉関係団体などの個人・団体会員）

・法人会費（法人一口5,000円）33口 165,000円（3年度27口 135,000円）

（福祉施設、会社、事業所等の団体会員）

<寄付金収入の拡充>

市民の方々から地域福祉の推進のために寄付された香典返し・一般寄付は、寄付の多様化もあり年々減少傾向となっていました。令和4年度の香典返しについては、寄付件数は減少したものの、比較的高額な寄付が多かったため、総額では増額となりました。

また、一般寄付、特定目的寄付ともに増額となっています。

特に、令和3年度に事業開始した「べっふ終活あんしんサポート事業」契約者及び成年後見制度受任者のほか、大口の特定目的寄付があったため、寄付金合計額は前年度を大幅に上回りました。

(単位：円)

内訳 年度	香典返し寄附金		一般寄附金		特定目的寄附金		物品寄附金		寄附金合計額	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
R4年度	137	5,337,000	89	2,078,861	5	67,902,880	4	877,620	235	76,196,361
R3年度	143	4,896,000	57	1,431,308	1	1,000,000	2	165,500	203	7,492,808

□物品寄附

・車いす 4件（13台） 877,620円

<事務事業の効率化>

ビジネス版コミュニケーションツールのLINE WORKS（無料版）を活用し、職員のスケジュール管理や情報共有及びペーパーレス化を図りながら組織運営の効率化に努めました。また、別府市の協力のもと、業務アプリ構築クラウドサービス「キントーン」を活用し、申請手続きの省力化や更なる事務事業の省力化・効率化に着手したところです。

◆社会福祉事業功労者表彰式の実施

活動計画 基本目標4

社会福祉関係者をはじめ、福祉意識の啓発・連帯と交流の輪を拡げ、永年、社会福祉の増進に貢献された方々を顕彰するため、第41回別府市社会福祉大会「社会福祉事業功労者表彰式」を10月28日に社会福祉会館で被表彰者34名、11団体中16名、6団体が出席のもと、開催をいたしました。式典後に、津軽三味線奏者の鈴木利枝さんと和心の皆さんによる特別演奏を行い、一般の方にもご来場いただく中で、華やかに行うことができました。

◆別府市社会福祉会館事業【市指定管理】

新型コロナウイルスの感染が減少する中、貸館業務も感染防止対策を講じながら徐々に緩和されていったこともあり、多目的大広間と作法室の利用者は大幅に増加しました。

また、別府市社会福祉会館の令和4年度独自事業として、8月27日（土）に出張おもちゃ病院の開院とおもちゃドクター養成講座入門編を開催し、市民福祉及び地域福祉の向上に努めました。

【利用者数】

(単位：人)

項目	大広間	小会議室	作法室	合計	免除
R4年度	10,149	1,965	450	12,564	7,051
R3年度	6,152	1,955	188	8,295	5,261

- 出張大分おもちゃ病院 依頼件数47件(延べ来場者60人)
- おもちゃドクター養成講座 養成講座受講者18人 ドクター8人
竹田市社協職員1名見学

◆別府市北部コミュニティーセンター事業

市民のふれあい、福祉の増進及び、教養、文化の場として利用されることを目的として、貸会議室やトレーニング室の運営を行っています。

また、車いす・ノルディックウォークポールの貸し出しや寄附の受付、ボランティア等の養成講座を実施し、利用者の利便性の向上と情報の共有に努めました。

特に今年度は建物の長寿命化を図るために、別府競輪地域貢献事業助成制度を活用して、外壁の防水塗装の施工及び照明器具のLED化、またランニングマシンやエアロバイク等のトレーニング機器の入れ替えを併せて行いました。

昨年度に続き、新型コロナウイルスの感染予防として、アルコール消毒や定期的な換気を行いながら運営しました。

また、台風や大雨による避難所開設は1回、3日間でした。

【利用者数】

(単位：人)

項目	ホール	第一会議室	サークル室	娯楽室	第二会議室	相談室	室計	健康器具	卓球	囲碁・将棋	器具計	合計
R4年度	3,549	541	1,664	3	87	64	5,908	3,989	710	0	4,699	10,607
R3年度	3,238	508	1,819	0	64	33	5,662	3,433	732	0	4,165	9,827

市民活動部門

＜ボランティアセンター事業＞

活動計画 基本目標2

住民のボランティアに対する理解を深めるための「ちょいボラ養成講座」の定期開催や地域に出向いて説明会を実施しました。新たな担い手を発掘するためにも、平常時から周知・啓発を図っています。加えて、各ボランティアの広報は、社協だよりやSNSなどを通じて活動の様子やメンバー募集の告知などを行っています。成果の一例としては、3年ぶりに開催となった「福祉まつり」では一般から公募したボランティアの活躍で祭りを非常に盛り上げていただき、加えて社協だより等で一般公募することで、今までボランティアをしたことが

ない人にもボランティアに興味を持ち活動するきっかけづくりができました。

さらに、ボランティア相談を受ける中、内容ごとにカテゴリー分けした登録者や団体の中から効率よくマッチングすることで各種イベントへの参加や、社協事業へ協力していただき、ボランティア活動の推進に繋がりました。また、新型コロナウイルスの影響で生活に困っている方への支援として、12月に別府市社会福祉会館でライスパントリー（お米の無料配布）を開設し、食料支援を実施しました。

□ボランティア相談

※相談件数 13 件（令和 3 年度 10 件）

ボランティア活動全般のことに対し、適切な助言やボランティア団体への紹介を継続して行っています。社協のホームページ等で紹介した団体に興味を持たれた方からの問い合わせが数回あり団体への紹介をコーディネートしています。また子ども食堂へのボランティア希望が増加しているので、関心や意識が高まっている傾向にあります。

（1）ボランティア活動支援・ボランティア活動保険の加入

ボランティア活動の希望者へ活動先の紹介を行うとともに、活動を依頼する施設や地域との活動調整に取り組みました。

ボランティア活動中のボランティア自身の事故や、第三者の身体その他に損害を与えた場合など、活動時の不測の事態に備えるため、見舞金や賠償金を支払う内容のボランティア活動保険の加入受付をしており、3月までに登録団体へ新年度の保険の案内を送付しています。

・ボランティア登録者数：39 団体 1,586 人、個人 37 人 計 1,623 人

（令和 3 年度 49 団体 2,743 人、個人 32 人 計 2,775 人）

（2）ボランティア連絡協議会との連携、援助

コロナウイルス感染症の影響が若干落ち着いてきた状況で、会の活動も感染症対策を講じながら再開しました。毎年実施している母子寮への物品寄贈、共同募金への参加協力、別府駅前の清掃活動を実施するとともに、別杵東速ブロック研修や、大分県ボランティア・NPO 推進大会などの市外ボランティア団体との交流も図りました。また、集合型のボランティアを懸念する方のために、集まらなくてもできるボランティアとして「フードボランティア」（食材寄贈）を新たに始めました。

（団体登録 5 / 個人登録 8）

（3）ボランティア協力校への育成援助

市内の小・中・高・支援学校の児童・生徒を対象として、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア活動・社会連帯の精神を養うとともに児童・生徒を通じて家庭及び地域社会の福祉活動の啓発を図ることを目的に、引き続き市内の学校へ協力校募集の案内を行いました。

令和4年度は、県立南石垣支援学校、別府溝部学園高等学校を指定校として助成を行いました。新たな指定協力校については、新年度が開始する前の早い段階からの周知・登録に努めており、県立南石垣支援学校については、地域活動を以前より活発に行っているという事で、社協と協力校とで連携を強化しながら更なる地域貢献活動を実施していきます。

令和5年度からは新たに大学の協力校も指定校も含め、更なる拡充を目指しています。

(4) 夏のボランティア体験事業の実施

学生・生徒及び社会人に夏休みを中心とした一定期間に、ボランティア活動を体験することにより、自分たちが住む地域社会の福祉課題や地域課題を理解し、ボランティア活動への積極的な参加を促進し、ボランティア活動の振興を図ることを目的としています。

令和4年度は29名の参加者に留まりました。25の施設が受入施設としていましたが期間半ばで感染症のクラスターが発生し中止となる施設も数カ所ありました。

<介護支援ボランティア事業> (別府市受託事業)

活動計画 基本目標2

□ 活動支援

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
ボランティア登録人数	25	26	85	145
受入機関	83	81	78	78

□ ボランティア活動実績

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
年間活動回数	393	233	241	1506
年間活動人数	93	46	71	759

□ 活動内容 (複数活動再掲)

(単位：件)

活動内容	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
レクリエーション等の参加支援又は補助	86	13	0	351
お茶出し、食堂内の配膳、下膳等の補助	187	0	0	680
散歩、外出、施設内移動等補助	0	0	0	52
話し相手	25	25	0	393
受入機関の職員と共に行う軽微かつ補助的な活動	79	69	78	217
行事の手伝い (模擬店、会場設営、芸能披露等)	0	0	1	538
その他 (生け花、入浴後のドライヤー等)	199	270	74	804

□別府市介護支援ボランティア研修会・説明会

・開催日時 令和5年3月16日(木) 14:00～ 別府市社会福祉会館

・参加者 24名(施設職員5名)

・内容 【ミニ講座】「認知症の基礎知識」社会福祉協議会

【研修会】別府リハビリテーションセンター作業療法士 後藤 綾氏
「フレイル予防とフレイルチェック」

介護支援ボランティア登録者に対しての研修と、未登録の住民に向けて事業の広報を目的として開催してきた講演会は、研修会として参加者自身の健康増進とモチベーションアップ、スキルアップを目的に実施しました。前半は事業説明とミニ講座で認知症の基礎知識を座学で学び、後半はフレイルの事についての座学と自身のフレイルチェックも体験し、講師として作業療法士を招くことで専門職による具体的な指導を受けることができました。参加者は24名で、その内5名は施設職員でしたが、6名の新規の登録者があり、会場内にボランティア受入れ中の施設を掲示するなど、意欲向上を図りました。

<ちょいボラ(訪問型有償ボランティア)事業>

活動計画 基本目標2

令和4年度は、コロナウイルスの感染予防対策を行いながら活動を継続することができました。ボランティアの中には、4年間継続して同じ依頼者を支援している人もおり、自立した関係を保って助け合うことが出来ています。今年度の活動実施回数は、延べ387回とコロナ禍でも昨年度を上回る実績となり、養成講座は10回実施し、参加者20人中ボランティア登録者は16人と、昨年より増えています。しかしながら、登録者が増えた一方で、ボランティアの高齢化や家庭事情の変化により、4名の方がボランティアを辞退する状況です。課題としては、多様化するニーズに対し、限定的な活動を希望するボランティアへのコーディネートは大変難しく、頻繁に活動する人と全く活動出来ない人が生じ、マッチングを円滑にできていないことや、活動できてないボランティアのモチベーションが下降傾向にあることが、あげられます。

今後は、4年間の実績から得た課題の解決策として、マッチングの効率化、ボランティアの育成、地域住民への周知活動の強化に努めます。また新年度からは、養成講座を月3回に拡充し、開催場所も1ヶ所増設することにより、ボランティアの増加を目指し、更にボランティア活動が盛んな地区をモデルとし、より地域主体で活動ができるようコーディネーターの発掘の準備を始めたところです。

なお、現在登録しているボランティアが今後も意欲を無くさず、持続的な活動ができるようにボランティア同士の交流やスキルアップの場を年数回提供し、ちょいボラから生まれる助け合いの地域づくりを進めていきます。

□登録依頼者数と登録ボランティア数

人数				
	令和4	令和3	令和2	令和元年
依頼者	91	77	60	20
ボランティア	72	65	55	29

□相談件数と延べ実施回数

相談内容	相談件数				実施回数			
	令和4	令和3	令和2	令和元年	令和4	令和3	令和2	令和元年
ちょっとした草むしり	11	7	4	2	28	9	0	1
庭掃除	4	1	1	2	44	5	1	1
電球交換	4	1	3	0	6	2	1	0
ゴミ出し	1	3	4	3	2	29	43	17
家具移動	2	1	0	1	1	1	10	0
ゴミ出し家具移動	0	1	2	3	0	0	0	4
簡単な修繕作業	0	0	0	0	0	0	0	0
ふだん届きにくい掃除	29	23	23	8	282	244	163	9
お話相手	5	3	3	1	7	11	7	0
買物	3	3	5	10	6	45	47	2
見守り	2	0	0	5	0	0	0	1
声掛け	0	0	1	2	0	0	0	3
付き添い	1	0	0	0	0	0	0	0
事業の間合せ	2	12	10	5	0	0	0	0
その他	21	6	14	10	11	12	18	1
合計	85	61	70	52	387	358	290	39

□新規相談者年代

年齢				
	令和4	令和3	令和2	令和元年
20代	0	0	0	1
30代	0	0	0	0
40代	0	0	0	0
50代	0	1	2	1
60代	5	5	8	6
70代	11	11	18	14
80代	34	28	28	17
90代	12	8	7	2
不明	23	8	7	11
合計	85	61	70	52

□相談者性別

相談者の属性				
	令和4	令和3	令和2	令和元年
男	19	12	20	14
女	61	44	48	30
その他	0	0	0	0
不明	5	5	2	8
合計	85	61	70	52

□ニーズ受付

	令和4	令和3	令和2	令和元年
受理	23	38	44	19
不受理	3	2	5	16
キャンセル	18	0	3	6
マッチング待ち	0	2	3	3
事業説明のみ	1	11	15	8

<地域貢献活動連携事業>

活動計画 基本目標1・3・4

◆医薬品小売協同組合連携事業（新規事業）

「地域住民の心の不安や健康を守り安心して暮らせる町づくりの実現」を目的に、別府市医薬品小売協同組合と連携し、住民一人ひとりの福祉課題等を必要な支援に繋げられる包括的支援体制の充実・強化に努める取り組みを令和4年度より実施しました。

市内32店舗に福祉募金箱や社協のチラシなどを設置し、社協だよりに店舗の紹介を写真付きで掲載しました。

また、医薬品店舗からは、ひとり暮らし高齢者のお客様へ「愛の訪問事業」の紹介をしていただき、利用に繋がったケースもあり、今後も地域の店舗と社協との連携をより強固なものにできるよう顔の見える関係づくりや情報交換・共有の場を設けていきます。

◆愛の訪問事業（拡充事業）

令和4年度より「愛の訪問事業」を拡充リニューアルし、今までの対象者に加え、新たに社協会員の加入者への配布を実施することにより多様な生活形態の方も利用できるようになりました。

本事業では、ひとり暮らしの高齢者（70歳以上）で、安否確認が必要な方へ乳酸菌飲料の配達を通じて、安否確認と孤独感の解消、福祉向上を行うことを目的として行っています。令和4年度の実績は、延べ211名に2,293本配布し、支払金額は89,626円（令和3年度実績は延べ95名 配布数1169本、支払金額43,253円）となりました。

今年度の事業拡充に伴い、新規利用者は22名増となり、内15名は社協会員の方です。今後も引き続き、地域での見守り・支援体制の充実・強化の観点から、民生委員・児童委員等との連携を図りながら、認知症地域支援推進員の活動とも合わせて真に必要とする人に対し地域社会からの孤立を防止するとともに、日常生活における問題を早期発見し、住み慣れた地域で安心した生活を送ることができるよう広報啓発に尽力します。

◆かけ橋パートナー店事業（新規事業）

この事業については、「自分らしく過ごせるぬくもりと支え合いのまち」を目的に、別府市内の店舗・商店・事業所等において、幅広い客層である顧客などから受けた相談事の分野を超えた地域内の多職種連携・多機関協働を進めながら、必要な支援に繋げることができるよう地域の見守りネットワークとして、地域住民や関係者の協力を得ながらインフォーマルな支援を提供するなど、新たな資源を開発できる福祉力の強化に努めるものです。

令和4年度は、現在7店舗のパートナー店が登録しています。今後もパートナー店の広報を継続し登録店の増加を目指していきます。

◆温もりセット定期便事業（新規事業）

この事業は、定期的に持続可能なフードパントリーを開催することにより、日常生活に困難を生じている「ひとり親家庭」を対象に食糧支援を実施し、地元企業・団体・個人等からの食品提供に、より食品ロス削減に寄与すると同時に、地域で課題を抱えた家庭とつながるきっかけを作る事業です。ひとり親が抱えている複雑化・複合化した課題等を、自分からSOSを出せない人、気づくことが出来ない人などを早急に発見し、温もりセット定期便でつながることにより、本人と直接かつ間接的に関わるための信頼づくりに努めました。令和4年度は7月から奇数月に食糧支援を5回実施し、延べ552世帯に配布しました。まだまだ物価高騰、燃料費高騰と厳しい世帯も多いので、令和5年度もこの事業を引き続き行っていきます。

なお、本事業実施に際し、既存の倉庫を改修し、食品保管ブースや玄米保管庫を設置しました。

<災 害 対 応>

活動計画 基本目標3

大規模災害が発生した際に、災害ボランティアセンターの被災者支援活動を効率的かつ効果的に行うために、関係団体と連携及び協力し、災害ボランティアネットワークが平時から情報交換や研修等を行える体制づくりを進めました。

（1）災害時事業継続計画（BCP）マニュアルの策定

・令和4年5月に第1版を発行

（2）研修会等

災害ボランティアセンターネットワーク研修

日時：令和4年7月22日・場所：別府市公会堂・参加人数134名

災害ボランティアセンター運営スタッフ研修会

日時：令和4年12月6日・場所：大分県総合社会福祉会館・職員参加人数：1名

災害時要配慮者避難訓練

日時：令和4年12月9日・場所：ホテルニューツルタ・職員参加人数：1名

災害ボランティアセンターリーダー研修会

日時：令和4年12月23日・場所：ホテルサンバリー・職員参加人数：1名

災害ボランティアセンターネットワーク研修会

日時：令和5年3月4日・場所：別府市社会福祉会館・職員参加人数：21名

参加者：54名

(災害ボランティアネットワーク、民生委員・児童委員協議会 他)

<共同募金事業>

活動計画 基本目標4

昨年に引き続き、コロナ禍での街頭募金活動は、人数制限や手指消毒の徹底、スタンド式募金箱による非接触にて実施しています。新しく設置した募金付き自動販売機での募金や、ふるさとサポート募金、歳末たすけあい募金についても増額したものの、赤い羽根共同募金が減収したことにより、共同募金総額は、前年度比395,733円減となりました。

(1) 赤い羽根共同募金

募金総額は10,500,147円で前年度比536,195円の減額であり、すべての募金で減額になっています。

令和3年度募金に係る令和4年度地域助成額は6,172,000円であり、配分については、地区社協及び各種団体へ助成を行っています。

□一般募金配分金

団体名	令和4年度	令和3年度	前年比	備考
17地区社会福祉協議会	5,225,500	4,650,750	574,750	
別府市ボランティア連絡会				
別府市子ども育成会連合会	103,000	108,000	△5,000	
別府市老人クラブ連合会	85,000	85,000	0	
別府市身体障害者福祉団体協議会	45,000		45,000	
別府市保護区保護司会	85,000		85,000	
別府市更生保護女性会	50,000	50,000	0	
別府市民生委員児童委員協議会	180,000	27,000	153,000	
別府市民間社会福祉施設連絡会				
別府市遺族会連合会	20,000	20,000	0	
別府市社会福祉協議会	378,500	1,740,250	△1,361,750	
計	6,172,000	6,681,000	△509,000	

(2) 歳末たすけあい募金

実績額は1,750,026円で前年度比140,461円の増額でした。

町内戸別募金以外の募金は増額となりました。

地域団体や福祉施設による歳末事業に配分する為、募集をし、配分先を決定しております。

コロナ禍であったものの、少しずつ地域や福祉団体等の活動の再開が見られ、前年度と比較し申込団体や配分金も増加しています。

□歳末たすけあい募金配分金

団体名	令和4年度	団体名	令和3年度
福祉施設・団体 (18)	664,000	地区社会福祉協議会 (1)	50,000
地区社会福祉協議会 (2)	82,000	福祉団体 (1)	50,000
子ども食堂等 (5)	100,000	NPO法人 (4)	165,000
社協 (困窮者食料支援/福祉まつり)	903,000	福祉施設 (2)	100,000
		児童クラブ (4)	58,000
		ボランティアグループ (2)	80,000
		社協 (子ども食堂/福祉フェスタ)	470,000
計	1,749,000	計	973,000

地域福祉部門

<地区社協との連携・活動の協力支援>

活動計画 基本目標1・2・3 (基本目標1)

一昨年から始めたモデル地区によるワークショップも6圏域全てで実施する事ができ、参加された方々には地域課題に対する共通認識を持ってもらうことが出来ました。

これを小地域ネットワークの活動を繋ぐために、地域へ出向き顔の見える関係性を築きながらコロナ禍で地域活動が停滞している地区への情報発信や地域の特色を生かした活動支援などを行いました。

出前講座や福祉用品貸出については、広報活動の効果もあり、利用者数が増えており、新規の利用者も徐々に増加してきています。

いきいきサロン実施地区においては、昨年から始めたサロン活動の取材やSNSを活用した広報活動を積極的に行い、地域活動への参加を希望する人々をボランティアや講師として繋げることが出来ました。

社会を明るくする運動や歳末たすけあい街頭募金については、3年ぶりに開催する一方、地区社協・福祉協力員市外研修はコロナ感染拡大期に計画が重なったことや地域での活動再開を優先したため、中止することとなりました。

・地区社協連絡協議会

開催日	場所	内 容
令和4年6月21日	福祉会館	・令和4・5年度役員について

		<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度助成金申請について ・地区社協活動支援について ・令和4年度福祉協力員研修会について ・令和4年度モデル地区ワークショップ状況報告について
令和4年8月29日	福祉会館	<ul style="list-style-type: none"> ・第72回「社会を明るくする運動」のお礼について ・地区社協のぼり状況報告について ・第35回別府市福祉まつり・市民と消防のつどいについて ・ワークショップ実施報告について ・地区社協・福祉協力員県内研修について ・第41回福祉事業功労者表彰式(福祉大会)について ・10月福祉協力員研修について ・別府市社協新規事業等について
令和4年11月10日	福祉会館	<ul style="list-style-type: none"> ・別府市福祉協力員研修会終了について ・第41回社会福祉事業功労者表彰式(福祉大会)終了について ・第35回別府市福祉まつり・市民と消防のつどい終了について ・歳末たすけあい街頭募金について ・福祉協力員研修「地域福祉講座」について ・組立式募金箱開封式の協力について(お願い) ・共同募金歳末事業配分金申請について ・健康・観光・防災ノルディックについて ・法務局の自筆証書遺言保管制度周知・啓発について
令和5年3月30日	福祉会館	<ul style="list-style-type: none"> ・歳末たすけあい募金 愛の鍋街頭募金終了について(お礼) ・共同募金歳末事業配分金申請結果について ・福祉協力員研修「地域福祉講座」週s量について(お礼) ・令和5年度事業計画(案)について ・福祉協力委員連絡協議会・研修会について ・令和5年度予算(案)について

・地区社協役員会

開催日	場所	内 容
令和4年5月17日	福祉会館	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4・5年度役員について ・地区社協・福祉協力員研修について ・令和4年度「社会を明るくする運動」について ・令和3年度事業報告書提出について ・令和4年度助成金申請について ・地区社協活動支援について ・令和4年度福祉協力員研修会について ・共同募金 組立式募金箱協力依頼について
令和4年6月1日	福祉会館	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4・5年度役員について ・地区社協・福祉協力員研修について ・令和4年度「社会を明るくする運動」について ・令和4年度助成金申請について ・地区社協活動支援について ・令和4年度福祉協力員研修会について

		<ul style="list-style-type: none"> ・共同募金 組立式募金箱協力依頼について ・令和4年度モデル地区ワークショップ状況報告について
令和4年7月29日	福祉会館	<ul style="list-style-type: none"> ・第72回「社会を明るくする運動」のお礼について ・地区社協のぼり状況報告について ・第35回別府市福祉まつり・市民と消防のつどいについて ・ワークショップ実施報告について ・地区社協・福祉協力員県内研修について ・第41回社会福祉事業功労者表彰式(福祉大会)について ・10月福祉協力員研修について ・別府市社協新規事業等について
令和4年10月26日	福祉会館	<ul style="list-style-type: none"> ・別府市福祉協力員研修会(終了)について ・第41回社会福祉事業功労者表彰式(福祉大会)について ・第35回別府市福祉まつり・市民と消防のつどいについて ・歳末たすけあい街頭募金について ・福祉協力員研修「地域福祉講座」について ・組立式募金箱開封式の協力について(お願い) ・共同募金歳末事業配分金申請について ・令和5年度事業計画(案)について ・福祉協力員連絡協議会について ・健康・観光・防災ノルディックについて
令和5年3月15日	福祉会館	<ul style="list-style-type: none"> ・歳末街頭募金終了について(お礼) ・共同募金歳末事業配分金申請結果について ・福祉協力員7研修「地域福祉講座」終了について(お礼) ・令和5年度事業計画(案)について ・福祉協力員連絡協議会・研修会について ・令和5年度予算(案)について

・地区社協事業

開催日	場 所	内 容
令和4年7月1日～ 8月27日	市内各所	第72回「社会を明るくする運動」強化月間参加
令和4年11月6日	別府公園	第35回別府市福祉まつり
令和4年11月17日	福祉会館	組立式募金箱開封式(開封作業協力)
年間	市内各所	いきいきサロン 6地区

◇福祉協力員活動への協力・支援等

福祉協力員に向けた地域活動支援として、令和3年度から実施していた地区社協モデル地区ワークショップが令和4年6月に終了し、地域の担い手不足や後継者支援に対する課題を抱える地区に対し、昨年度に引き続き「災害時の地域支援の在り方」、「認知症当事者の状況」、「地域にいる身寄りのいない高齢者への支援」についての3つのテーマで、生活支援体制整備事業、認知症初期集中支援事業、権利擁護支援体制促進事業と連携した福祉協力員研

修会をしました。

わかりやすく興味深いテーマであったことから定期的な開催を望む声が多く聞かれたため、次年度は研修会と並行しながら、福祉協力員同士が顔なじみになり、地域情報と地域課題の共有をテーマとしたワークショップの開催を計画していきます。地区社協モデル地区は圏域を交えてのワークショップであったため、福祉協力員向けに、より地域に密着した顔の見える関係性をつくる必要があると考え、地区単位での開催を考えています。

・福祉協力員研修会

開催日	場 所	内 容
令和4年7月22日	公会堂	「地震だ！台風だ！豪雨だ！その時、地域はどうする!？」 神戸大学名誉教授・日本防災士会理事長 室崎 益輝
令和4年10月14日	公会堂	「ずっといきいき暮らせる希望のある地域へ」 有限会社なでしこ 代表 吉川 浩之 大分県希望大使 戸上 守
令和4年12月17日	福祉会館	「身寄りがなくても安心して暮らせるまちづくり」 長野県社会福祉協議会 総務企画部 中島 将 「身寄りがなくても安心して暮らせる地域づくり」 長野県南箕輪村社会福祉協議会 事務局次長 唐木 雅彦

<生活支援体制整備事業> (別府市受託事業)

活動計画 基本目標1・2

コロナウイルス感染症の影響が若干落ち着いてきた状況の中ではありますが、地域活動も徐々に再開している中、生活支援コーディネーターとしては①薬局等と協働して店舗前に休憩用ベンチを設置する、②ひとまもり・まちまもり協議会でちょいボラ運営する(企画準備)、③地域と学生(大学)の協働を支援する、④個人宅を利用した「集いの場カフェ」オープンに向けて、⑤地域食堂と地域包括の連携、⑥住民向けの健康教室の開講、などの活動を進めてきました。また、市民講演会では近所付き合いの重要性など「災害」をテーマにした講演会を開催し、住民の福祉力向上を図りました。

□生活支援コーディネーター活動実績 活動合計 119件

- ・高齢者の生活に係る地域資源の把握 8件
- ・高齢者の生活に係る地域ニーズの把握 6件
- ・地域に不足する生活支援サービスの創出 1件
- ・地域に不足する支援の創出 4件
- ・支援の担い手の養成 5件
- ・高齢者が担い手として活動する場の確保 1件
- ・関係者間の情報共有及び生活支援サービス提供主体間の連携体制づくり等

- ネットワーク構築 43件
- ・地域ニーズと生活支援サービス提供主体における活動のマッチング 2件
- ・協議体への参加 18件
- ・広報誌等の作成・配布 1件
- ・講演会等の開催 1件
- ・コーディネーター研修会等への参加 30件

<別府っ子応援事業>

活動計画 基本目標1

「活動支援」申請5件は全て小学生で、内訳は一般家庭1、ひとり親家庭3、養護施設1でした。中学生については、コロナ特例貸付借入世帯等から制度の問合せはありましたが、申請には至りませんでした。「奨学金支援」の決定については、例年通り別府市奨学生選考委員会の審査方法に準じ20名を選定、又、令和元年度の対象者に看護科専攻科進学生が1名いたこと（通常3年間→5年間該当）、令和2年度進級生のうち1名が世帯で大分市へ転居していたこと（非該当）もありましたが、最終的には累計60名の支援となりました。

事業名	事業内容	実績
活動支援	小・中学生を対象に経済的な事情でスポーツ、文化、芸術活動などの子ども達の意欲やチャンスを妨げないために、活動経費の一部を支援します	小学生 5件(99,100円)
		中学生 申請なし
奨学金支援	高等学校へ進学する学生を対象に、経済的な事情により修学意欲を妨げないよう、奨学金支援を行います	20名(1人当たり30,000円)
子ども食堂支援	様々な事情による子どもの孤食や欠食を防ぎ、地域ぐるみで子どもを大事にする取り組みと経費の一部を支援します	事業継続支援 4件 活動支援 5件
福祉教育の推進	児童生徒に福祉教育を通じて、自立した個人がお互いにその存在を認め合い、関わりを大切にしながら生きていく「ともに生きる」という考えを大切に、技術や知識だけでなく、【生きる】、【いのち】、【障がい】、【老い】などについて考える場の提供を推進します	中学校1校 1回 小学校3校 11回 放課後デイサービス 1回
別府っ子応援アクション	子どもたちへの支援を様々な形で実施するため、「空いた時間に活動のお手伝い」や「時間や自信はないが寄付での支援」など、どんな形でも応援できる支援サポーターを募っています。	本年度寄付実績 5,015,151円(3件)

◆福祉まつりの開催

活動計画 基本目標2

3年ぶりに実施した福祉まつりでは、感染症対策を様々に講じながらも2万人を超える多くの来場者があり大盛況となりました。27団体の出店に対しても1団体ごとにテントを離しての設置やテントごとに手指消毒液を配備し、テント前での販売を禁止するなど、出店団体の方々も感染症対策にご協力していただきました。

また、出店が困難な団体には、新設した参加型ブースで昔遊びコーナー（わなげ、ストラックアウト、ビンゴゴルフなど）や森林探検、防災グッズ作り等に協力していただきました。

当日のイベントボランティアとして別府大学の学生や、市民ボランティアも参加していただき、ウィズコロナでの新たな福祉まつりの開催ができました。

◆民間社会福祉施設との協働

活動計画 基本目標1

市内47民間社会福祉施設の連絡会の事務局として、各施設との交流・研修等を行い連携の強化に取り組んでいます。コロナの影響は沈静化していますが、業種ごと施設ごとの参加対応に温度差があり、年間を通じて実施していた火の海まつりへの参加、親睦スポーツ大会、共同募金運動への協力及び研修会は実施できませんでした。

一方、役員会では、来年度の事業計画立案において、参加可能な施設での事業実施について検討してくこととなりました。

◆レクリエーション、福祉備品貸出事業

活動計画 基本目標2

社協だよりへの定期的な掲載の他、出先での社協事業紹介などにより貸出相談等が増えています。また、福祉まつりで、レクリエーション備品を活用したゲーム会場では、最終時間まで参加者が途切れずに複数のゲームを楽しんでいました。

昨年同様出前講座やサロンの場で周知活動に務めたことにより、備品の貸出しが増加し、コロナ禍での地域や近隣におけるふれあい、交流事業、各種研修を行うグループ・団体活動の活性化や住民間交流の促進を図ることができました。また、福祉施設等の新人職員研修での利用も行われ、さらなる施設との連携強化に役立てることができました。

貸出の実績としては、地区社協関係（3団体・3件）老人会（2クラブ3件）・施設関係（1施設2件）・子ども食堂等（2団体2件）・自治会・地域サロン（4町5件）・福祉団体（2団体2件）スポーツ団体（1団体・1件）サークル団体（1団体・1件）となっています。貸出した

団体等への聞き取りにより、福祉備品のニーズ把握と整備を図りながら、今後も地域の実情に即した活動の支援に取り組み定期的な貸出しができるよう、備品の追加や補充及び補修を行い、さらなる利用へ繋げていきます。

◆福祉ちょっと知っとう出前講座

活動計画 基本目標2

福祉活動推進のお手伝いをする事や福祉に興味を持っていただくことを目的に、自治会、サークル・団体、会社等からのご要望に応じて社協職員及び関係機関等の職員やボランティアが地域に出向いて講座を行なうことで、地域における情報発信や、新たな担い手の発掘・育成支援をするとともに地域住民による支え合いの福祉のまちづくりに繋げています。

コロナ禍でも活動再開に向けて、出前講座を聞きたいというサロンも増え、ワークショップの参加地区の課題から、出前講座と認知症サポーター養成支援をシリーズで行うなど、内部連携もでき、社会貢献や社協との事業連携を考えている企業の中から、災害ボランティアや認知症に対する出前講座依頼もありました。

また、民生委員の改選年度であったため、全地区の民児協に対して本講座の広報を実施した結果、7地区及び1ブロックで出前講座を実施することが出来ました。

定期的に出前講座を活用されるサロン等も増えてきており、講座の内容によっては、ボランティア登録されている団体に講師を依頼し、実施することもできました。

【実施状況】

団体	地区社協他	民児協	老人クラブ	自治会サロン	ボランティア	事業所	学校	一般	合計
回数	2	11	3	11	0	2	0	1	30

講座	認知症	社協概要等	権利擁護	介護保険	ちょいボラ	健康教室	災害ボランティア	その他	合計
回数	1	13	6	0	0	5	4	1	30

<第2期別府市地域福祉計画・第3次別府市地域福祉活動計画の策定>

活動計画 基本目標1・2・3・4

地域住民が抱える課題が複雑・複合化する中、支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、本会では「自分らしく過ごせるぬくもりと支え合いのまち 別府」を基本理念とした「第2次別府市地域福祉活動計画」が令和4年度で終了となったため、これまでの活動計画の進捗状況や社会情勢の変化を踏まえた、今後5年間の活動の指針となる「第3次地域福祉活動計画」を策定するにあたり、別府市が策定する「第2期別府市地域福祉計画」と整合性を図り、別府市と地域課題や地域福祉の推進の理念・方向性を共有し、より具体的・効果的な取り組みを連携しながら推進していくために、両計画を一体的に策定しました。

生活支援・相談部門

<包括的な相談支援体制基盤の確立>

活動計画 基本目標1・3

複合的で複雑化した多様なニーズを抱え、継続的な支援を必要とする方に対して多職種他機関と情報共有を行いながら、電話相談や面談、アウトリーチを交えた伴走型の支援によるワンストップでの対応に取り組み、課題解決に向けた複合的な相談にも対応できるよう、相談支援ネットワーク体制の拡充や、広報活動により支援を必要とする方の早期発見と支援が届きやすい環境づくりに努めました。

また、認知症高齢者等の増加に対応して権利擁護支援を必要とする人を適切な支援に繋げられるように、地域住民の参画を得ながら司法・医療・福祉等専門職団体などと連携し、権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築に取り組みました。

<生活困窮者自立支援事業> (別府市受託事業)

活動計画 基本目標1・3

新型コロナウイルス感染症対策での国の各種支援制度が終了していく中、なおも経済的に生活が困窮する方に対して生活状況の確認、特例コロナ住居確保給付金の受付、経済的のみならず他の困りごとを含めた包括的な相談を行いました。

新型コロナウイルス感染症による影響を受けていないものの、困りごとを抱える相談者や各種制度の終了者で、継続した困りごとを抱える相談者については、一緒に困りごとの内容の把握や整理を行いました。困りごとの改善が困難だと判断された相談者は、行政関係機関、障がい者・高齢者支援機関、医療機関等と職種や事業所の垣根を越えた情報共有や物的支援、専門機関への同行支援を行うなど、途切れないつなぎに努め「伴走型の相談支援」を実施しました。

また、本人や世帯の属性にかかわらず、一般就労から自立に向けた支援や一般企業の受け入れ態勢への働きかけ、家計に課題を抱える生活困窮者に対して自ら家計を管理する力を高める支援に努めました。

さらには、義務教育終了などにより専門職の関りが途切れる可能性の高い世帯に対して、スクールソーシャルワーカーなどの専門職との情報共有や、地域に向けて民生委員児童委員定例会などでの広報活動に努め、支援を必要とする方の早期発見と支援が届きやすい環境づくりに取り組みました。

新規相談者の傾向として、一人で困りごとを抱えている割合は増加傾向で、特に仕事関連の困りごとや、将来に対しての不安の訴えも大きく増えています。

今後もより一層、多職種他機関との連携の必要性が高まるものと思われま

□ 相談者一覧（実人員）

区分	令和4年度	令和3年度
新規相談者	218	252
住居確保金支給者	0	0
合計	218	252

□ 新規相談内容（実人員） ※複数あり

相談内容	令和4年度	令和3年度
病気や健康、障害のこと	80	59
住まいについて	60	48
収入・生活費について	147	133
家賃やローンの支払い	44	37
税金・公共料金の支払い	22	13
債務について	31	18
仕事探し、就職について	54	23
仕事上の不安・トラブル	15	4
地域との関係について	5	2
家族との関係について	25	13
子育てのこと	8	2
介護のこと	10	5
ひきこもり・不登校	10	6
DV・虐待	5	5
食べる物がない	43	39
その他	167	122
合計	726	529

□ 相談者の世帯

世帯	令和4年度	令和3年度
単身世帯	84	122
家族世帯	104	102
その他	30	37
合計	218	252

□ 新規相談方法

相談方法	令和4年度	令和3年度
電話	123	102
来所	90	148
訪問	4	2
その他	1	0
合計	218	252

□ 新規相談の者の属性・年代

年代	令和4年度	令和3年度
10代	1	0
20代	19	22
30代	20	14
40代	44	33
50代	38	47
60代	20	40
70代以上	43	44
不明	33	52
合計	218	252

< 権利擁護支援体制促進事業 >（別府市受託事業）

活動計画 基本目標3

権利擁護支援の地域連携ネットワークの中核機関として、別府市成年後見支援センターでは、意思決定支援の理念が地域に浸透し、成年後見制度を必要とする人誰もが制度の利用につながるよう支援体制の構築に取り組むとともに、成年後見制度への理解を深めてもらうため市民や専門職等を対象に普及啓発を行なったほか、後見業務の新たな担い手として期待される市民後見人の養成講座（専門課程）を開催しました。

また、身寄りがない高齢者や障がい者家族の「親亡き後」問題等後見ニーズの高まりに対応して、個人後見が困難な事案や後見報酬が見込めない事案について法人として後見受任に取り組んでいます。

(1) 別府市成年後見支援センターの設置・運営

① 運営委員会(弁護士/司法書士/社会福祉士/医療福祉関係者/民生委員/行政等 16名)

第1回 令和5年3月27日(月)

② 受任調整委員会(弁護士/司法書士/社会福祉士/医療福祉関係者/行政等 10名)

第1回 令和4年 5月20日(金) 審議案件 6件

第2回 令和4年 7月15日(金) 審議案件 3件

第3回 令和4年 9月16日(金) 審議案件 4件

第4回 令和4年11月18日(金) 審議案件 4件

第5回 令和5年 1月18日(水) 審議案件 2件

第6回 令和5年 3月10日(金) 審議案件 4件

【受任調整件数】

区分	件数	後見人等
高齢者関係	13	弁護士、司法書士、社会福祉協議会
障がい者関係	10	弁護士、司法書士、社会福祉士、社会福祉協議会

(2) 総合相談

① 一般・専門相談

延べ相談件数	書類作成支援	同行支援	任意後見相談件数
212	14	12	50

※任意後見相談件数は終活相談件数で、延べ相談件数の外数

② 終活相談(毎月第3木曜日ほか随時対応)

主な相談内容	件数
福祉サービス利用の仕組みと要介護に備えた資産運用の方法	11
遺言書の書き方と遺産の処分方法	23
任意後見契約の内容の説明と相談先の紹介	18
死後事務委任契約の内容の説明と相談先の紹介	21
後見制度利用の判断に関する事	26

※相談件数に重複相談あり

(3) 成年後見実務担当者研修会の開催(相談機関等専門職を対象とした研修会)

・開催日時 令和4年 8月25日(木) 13:30～ 別府市社会福祉会館

・参加者 75名(会場参加26名、オンライン参加49名)

・内容 【基調講演】「成年後見制度をめぐる地域連携ネットワーク」

講師; 白杵市市民後見センター所長 弁護士 田中 利武

【事例検討】「事前質疑応答など」

(4) 市民後見セミナーの開催

- ①第1回 令和4年9月10日(土) 13:00～ 別府市社会福祉会館
・参加者 70名(会場参加44名、オンライン参加26名)
・内容 【基調講演】「暮らしの中の終活」
講師；(一社) ウェルネスサポ-ラb 理事 吉武ゆかり
- ②第2回 令和4年10月29日(土) 13:00～ 別府市社会福祉会館
・参加者 82名(会場参加46名、オンライン参加36名)
・内容 【基調講演】「救急搬送の実態」(別府市消防本部)
「ACP と人生最終段階における医療・ケア」
講師；ハートクリニック院長 小野 隆宏
- ③第3回 令和4年12月17日(土) 13:00～ 別府市社会福祉会館
・参加者 86名(会場参加52名、オンライン参加34名)
・内容 【基調講演】「身寄りがなくても安心して暮らせるまちづくり」
講師；長野県社会福祉協議会 主任企画員 中島 将
南箕輪村社会福祉協議会 次長 唐木 雅彦

(5) 人材育成

- 市民後見人養成講座(専門課程Iフォローアップ研修)の開催
・集合研修(全8回) 8/25(土)、9/10(土)、10/15(土)、10/29(土)
11/19(土) 11/26(土)、12/10(土)、12/17(土)
・対象者数 58名

(6) 法人後見事業

令和5年3月現在 受任者数 17名(累計21名)

【類型別受任状況】

年度	補助	保佐	後見	合計
令和4年度	1名	6名	10名	17名

(7) ベっぶ終活あんしんサポート事業(令和5年3月末現在)

任意後見契約件数	4
死後事務委任契約件数	5

<生活福祉資金貸付事業> (大分県社協受託事業) 活動計画 基本目標1

生活困窮世帯が、再就職後の初回給料までの生活費支援申請が 31 件と昨年度に比べ 54.8%増加しています。

生活保護世帯の申請ケースでは、障がい者自動車購入申請や転居費用申請など一般福祉費申請数も増加しています。

また、貸付の条件に適合せずに、決定に至らなかったケースが3件ありました。

教育支援資金については、入学金等の準備ができないとの相談件数も増加しましたが、子ども本人が借受人になること、民生委員の関わりや他法優先であることから、申請件数は、相談件数を下回っています。

また、別府っ子応援事業「奨学金」支援を受けた者が、教育支援資金を申請する事案も生じました。

令和2年度に始まったコロナ特例貸付が9月末申請受付終了となる中、今年度も引続き、貸付に関する相談や申請等を行いました。令和5年1月で最長3年間の返済猶予期間が終了し、コロナ特例貸付資金のうち、緊急小口資金及び総合支援資金（初回）に対する免除及び猶予相談に対し、申請書類の確認や説明等、相談者に寄り添いながら支援を行いました。

来年度は、総合支援資金（延長）の償還開始が計画されており、免除申請及び猶予申請案内が県社協から発送される予定で、今年度同様に市町村社協への問合せや相談の増加が予想されます。

生活福祉資金受付実績

(単位:円)

貸付資金種類		令和4年度				令和3年度	
		申請状況		決定状況		決定状況	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
総合支援資金	生活支援費						
	住宅入居費						
	一時生活再建費						
福祉資金	福祉費	28	6,030,000	26	5,855,000	25	2,291,000
	緊急小口資金	31	2,905,000	30	2,805,000	17	1,570,000
教育支援資金	教育支援	1	31,000	1	31,000		
	就学支度費	8	3,858,000	8	3,858,000	11	2,779,000
	教育+就学費	6	2,456,000	6	2,456,000	7	1,466,000
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金						
	要保護世帯向け不動産担保型生活資金						
合計		74	15,280,000	71	15,005,000	60	8,106,000

コロナウイルス感染症関連特例貸付資金受付実績

(単位:円)

貸付資金種類		令和4年度				令和3年度	
		申請状況		決定状況		決定状況	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
福祉資金	緊急小口資金	134	26,650,000	131	26,050,000	581	115,950,000
総合支援資金	生活支援費	124	63,800,000	123	63,200,000	532	278,350,000
総合支援資金(延長)	生活支援費					242	125,550,000
再貸	生活支援費					730	380,250,000
合計		258	90,450,000	254	89,250,000	2,085	900,100,000

◆福祉資金貸付事業

活動計画 基本目標1

別府市社協独自財源で低所得者世帯を対象に、50,000円を限度額とした貸付事業です。近年の相談者の大多数は再就職による初回給料までの生活費や要保護世帯のエアコン購入相談など本制度貸付限度額以上の資金を必要とするため大分県社会福祉協議会から受託している生活福祉資金で対応することになり、27年度から申請相談がない状況です。

なお、受託事業貸付制度の対象外案件のため事業継続を行っていますが、今後の課題として2件の収入未済額の借受者への償還依頼について支障をきたしている状況で、新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、督促発送などにより1件1回2千円の収納を行い、併せて償還指導を行うなど、完済に向けて償還事務をおこないます。

- ・対象者 低所得世帯
- ・貸付限度額 50,000円

(単位:円)

区分	貸付件数	貸付額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収納率(%)
過年度(H15~H24)	2	100,000	29,000	2,000	0	27,000	2.0

※過年度償還完納 0件 次年度繰越収入未済 2件

<日常生活自立支援事業> (大分県社協受託事業)

活動計画 基本目標3

成年後見制度と並ぶ権利擁護支援の重要な制度として、認知症や知的・精神障害などのために判断能力に不安を抱える方が、住み慣れた地域で安心して生活できるよう、福祉サービスの利用手続きや日常的な金銭管理に関する助言や手続き代行等の援助を行いました。

認知症の一人暮らし高齢者世帯等をはじめ、自立生活を目指す知的障がい・精神障がいの若い世代の方からの問い合わせも年々増加しており、引き続き支援体制の充実に努めていきます。

□初回相談受付の状況（令和4年4月～令和5年3月）

年度	認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	合計
R4	68	10	37	30	145
R3	68	12	34	32	143

□契約締結の状況（令和4年4月～令和5年3月）

年度	年度当初契約件数	新規契約件数	解約件数	年度末契約件数
R4	105	23	22	106
R3	82	40	17	105

□日常生活自立支援事業利用状況（延べ人数・件数）

区分	令和4年度	令和3年度
利用者数（人）	1,224	1,172
利用回数（回）	2,654	2,444
預かり件数（件）	1,224	1,172

□世帯別利用状況

年度	一般世帯			生活保護世帯			合計		
	人数	回数	預件数	人数	回数	預件数	人数	回数	預件数
R4	487	894	487	737	1,760	737	1,224	2,654	1,224
R3	442	720	442	730	1,724	730	1,172	2,444	1,172

◆認知症地域支援・ケア向上推進事業

例年開催している別府市認知症市民講演会は、コロナ後初の大規模会場で開催し、別府市公会堂大ホールに260名が来場され、社協主催の講演会では過去最大級の来場者数となりました。大分県希望大使（認知症当事者）と支援者による講演会は別府市では初の試みで、来場者アンケートでは約9割の方が講演会に満足したと回答しており、認知症本人の声を聞く大変貴重な機会になりました。

また、9月21日「世界アルツハイマーデー」には認知症の家族の会、地域包括支援センター、歯科医師、学生、行政で活動し、認知症を理解してもらうための街頭啓発活動を行いました。別府市初の開催でしたが、約1時間で500枚のチラシとマスクの配布ができ、多職種との連携づくりに繋がったため、今後も継続していく予定です。

認知症サポーター養成講座は応募人数が昨年より減少した反面、地域サロンや市内の企業から依頼があり出張講座を行いました。地域サロンでは認知症高齢者に扮した社協職員へ声掛け体験をしてみるとという認知症高齢者等ひとり歩き声かけ訓練も実施し、体験者からは

「実際にやってみると難しい。基礎知識を身につけ声をかけることが大切」という感想があり、このような訓練を繰り返し行うことで、一人でも多くの方に学びや体験をしていただけるように努めます。

【参加・実施回数】

		令和4年度	令和3年度	令和2年度
地域活動	オレンジカフェ別府	3	3	3
	認知症市民講演会	1	1	0
	認知症高齢者ひとり歩き声掛け模擬訓練	1	1	0
	別府市地域ケア会議	12	10	
連絡会	キャラバンメイト連絡会			1
認知症サポーター養成講座	企業	4		
	地域	5	10	3
	小中学校			
	高校・大学等			
事業説明	地域向け			
	多職種、事業所	1	1	
出前講座	地域	1	4	1
	学校		1	
	その他		1	
個別支援	訪問等(2世帯)	2	6	
相談	電話と来館者	17	8	

<認知症総合支援事業> (別府市受託事業)

活動計画 基本目標3

◆認知症初期集中支援事業 (令和4年度 新規相談件数-35件)

令和4年度の新規相談件数は前年比125%でした。家族・地域包括支援センターからの相談についても増加しました。一方、若年性認知症の相談がなく障害者分野の連携は殆どありませんでした。支援拒否への関わりは、非常に高いソーシャルワークのスキルが求められるため、国が必須としているチーム員養成研修に加え、初期集中支援におけるケアマネジメントやソーシャルワーク、地域連携の在り方の他、認知症医療、介護等…専門的研修を受講しました。

困難事例(介入拒否等)において、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所と密に連携を図り、チームが地域のネットワークの一員として有効な活動ができました。

また、支援終了ケース引継ぎにおいて、同行訪問を行う等、丁寧な個別ケース支援を積み重ねることが出来ました。

1 新規相談経路

	R3	R4	前年比
本人	1	0	0.0
家族	9	11	1.2
近隣	1	1	1.0
民生委員	—	1	—
医療機関	4	2	0.5
地域包括	11	13	1.2
居宅	—	1	—
その他	—	5	—
不明	2	1	0.5
合計	28	35	1.3

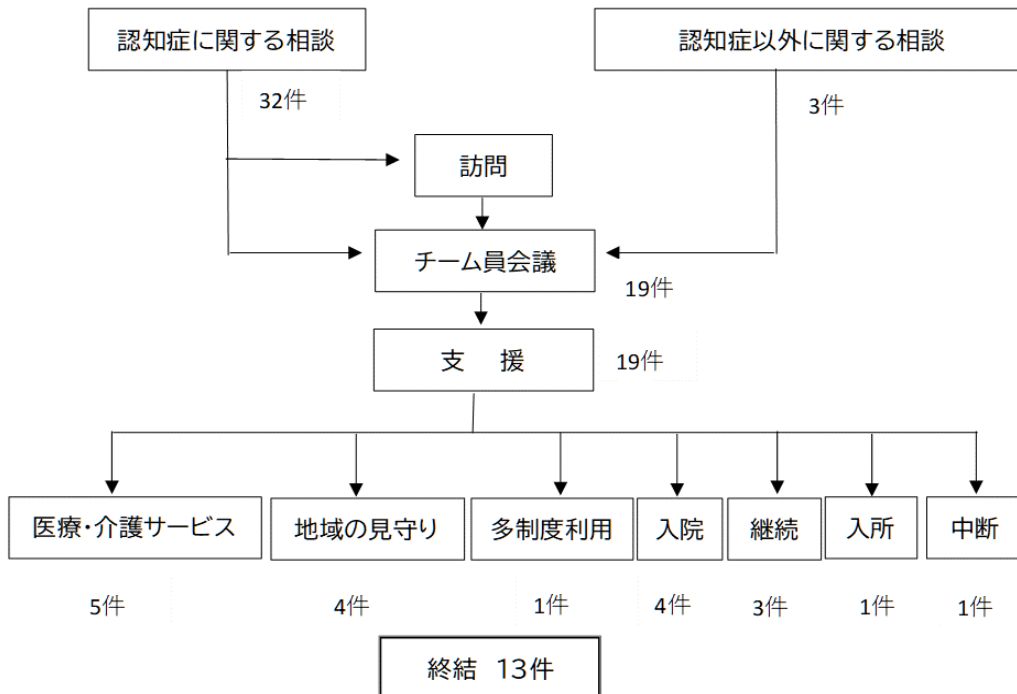
2 介入時の相談内容

相談内容	件数	構成比
BPSD	2	3%
物忘れ	22	29%
医療未受診	17	23%
家族支援	15	20%
介護保険	19	25%
合計	75	100%

3 活動内容

令和4年度 認知症初期集中支援チーム活動報告

新規相談35件(相談のみ 16件)



<居宅介護支援事業>

活動計画 基本目標3

令和4年度についても、引き続き地域の介護資源の把握や地域住民に協力依頼し地域包括ケアシステム実現に向け、人的ネットワークの構築を重点に支援を行いました。

利用者によっては、介護サービスだけでは在宅生活継続ができず、介護保険外サービス等の利用の働きかけを行い、プランに結びつけました。

また、キーパーソン不在のご利用者の方に対し、通常のケアマネジメント業務以外（コロナワクチン支援、入退院支援、経済的困窮している方への働きかけ等）の支援量が増加し、新規件数の受け入れは減少となりました。

前年度に続き、介護サービスを安定的に継続させるため業務継続計画（BCP）策定に関する研修会の参加や居宅介護支援専門員協会の情報収集に努めました。加えて「地域包括ケアシステムの構築」を目ざし、社会資源の発掘及び地域関係者との結束を強め、地域内でサポートし合えるよう地域のネットワークを確立するための体制強化にも関わっていきました。

		令和4年度	令和3年度	前年度比
計画作成数	介護	571	643	88.8%
	(KPなし独居)	(151)	—	
	予防	43	74	58.1%
訪問調査		23	37	62.1%